

2013 年度前期授業アンケート集計結果（全体的特徴）

- アンケートを実施した授業 140
- アンケート実施担当教員 専任教員 51名のうち51名（100%）
非常勤講師60名のうち56名（93.3%）

【属性】（設問 1～設問 2）

アンケートに答えた学生の内訳は、次表の通り。

学部学科別人数・構成比					学年別人数・構成比		
学部	学科	人数	構成比	備考	学年	人数	構成比
経済学部	経済学科	1,043名	25.2%		1年次	1,244名	30.0%
	臨床福祉コミュニティ学科	60名	1.4%	3年次生以上	2年次	1,186名	28.6%
	公共政策学科	298名	7.2%	1～2年次生	3年次	1,261名	30.5%
経営学部	スポーツ経営学科	1,793名	43.3%		4年次	353名	8.5%
	情報メディア学科	918名	22.2%		5年以上	62名	1.5%
科目履修生・交換留学生・聴講生		28名	0.7%		科目等履修生など	35名	0.8%

延べ回答者数／延べ受講者数＝回答率

4,140／6,922 ＝59.8%（昨年度：62.6%）

前年度までは、担当する科目全て（実技、実習、演習を除く）を実施対象としていたが、今年度より、担当科目のうち適当と思うもの1科目以上を教員が選択して実施することとしたため、専任教員は100%、非常勤講師は93.3%と大幅に実施率を高める結果となった。

2科目以上アンケート実施した者は、そのうち専任教員19名、非常勤講師10名である。

設問 3. 【科目の選択理由】

○臨床福祉コミュニティ学科では、「資格取得に必要」、「必修科目」が7割を占めているが、それ以外の学科では、「シラバスを見て興味がわいた」という積極的受講理由は22.2%にとどまり、「必修科目だから」（29.7%）、「資格取得に必要だから」（10.1%）のほかは、「時間割を埋めるため」（24.4%）、「先輩や友人からすすめられた」（12.0%）など消極的理由が36%ほどとなっている。

その中で、情報メディア学科は、「シラバスを見て興味」の割合が31.0%と比較的高くなっていることが特徴といえる。

設問 4. 【板書】

○板書については、「分かりやすい」と回答した割合が34.1%で、前回に比べ5ポイントほど低下した。「分かりにくい」と答えた12.4%の者は、板書について「字が小さい」、「字が汚い」、「書く量が多い」、「消すのが早い」、「略字で解読できない」、「ホワイトボードだと見えない」との指摘を具体的に記述している。

設問 5. 【話し方】

○教員の話し方についても、「分かりやすい」が 53.1%で、前回に比べ 4 ポイントほど低下した。「わかりにくい」と答えた 11.2%の具体的な理由としては、「マイクの音量が適切でない（大きすぎる、小さすぎる）」、「聞きとりにくい」、「しゃべるのが早い」といった記述があった。

設問 6. 【授業の復習】

○「授業の復習」については、「復習を全くしたことがない」が 42.2%であり、授業の復習をして理解を深める習慣が備わっていない者が多いといえる。学科別には、スポーツ経営学科は復習をしていない割合が 55.2%であったのに対し、情報メディア学科では 33.6%、臨床福祉コミュニティ学科では 24.5%にとどまり、学科による大きな差異がみられた。

一方で、「毎回復習する」（10.1%）と「ほとんど毎回復習する」（11.6%）と回答した学生は合わせて 21.7%で、ほぼ前回どおりの割合となった。

中教審の「学士課程教育の構築に向けて」（答申）において、単位制度の実質化が求められているにもかかわらず、自主的な学習が行われていない現状から、課題を出す等の自習時間を増やす工夫が必要である。

設問 7. 【授業の工夫】

○理解度を深めるため、「レジュメの配布」が（51.3%）、「パワーポイント等電子化された教材の利用」（22.4%）、「ビデオ・DVD の利用」（15.6%）などが取り入れられており、自由記述欄にも、こうした授業での工夫により、「理解が深まった」、「わかりやすい」といった回答が多く寄せられた。

一部科目で実施された「ゲスト講師による授業」に対しても、概ね好評であったといえる。

設問 8. 【授業環境】

○教室内の授業環境については、全体の約 3 分の 2（63.3%）が「常に静穏」であると回答しているが、学科別にみると情報メディア学科だけが 58.9%と低い割合となっている。「私語や携帯電話の使用が常にある」との回答が 5.0%であったが、記述部分には、「私語や途中退席は集中できないので注意して欲しい」、「遅刻や途中退席する学生が多いので、出席カードや失格など厳格にして欲しい」など教員の対応を求める声が多くあった。

最後の設問「良かったと思われる点」でも「静かな授業」を評価する回答が非常に多くあることから、真面目に授業に取り組みたいと思う学生のためにも静穏な環境を整える必要がある。

設問 9. 【授業の進め方】

○複数回答可で今回初めての設問であるため前回との比較などできないが、学生が理解できているかを確認する工夫として、「学生との問答がある」（25.9%）、「前回の振り返り」（24.9%）、「小テストの実施」（21.2%）、「質問に対する適切な回答」（9.9%）など実施されている実態を確認できた。逆に「ほとんど一方的だった」と答えた割合は 16.9%あり、特にスポーツ経営学科で 20.9%と高くなっている。

設問 10. 【授業の難易度】

○授業の難易度（設問 16）は、「理解できる」（43.1%）、「十分に理解できる」（23.4%）をあわせた 66.5%が授業を理解できているが、「やや難解」（26.1%）、「難解すぎて理解できない」（7.4%）など教室内の 3 人に 1 人の者が理解できずに授業を受けているといえるため、担当者は、授業の進行にあたって学生の理解度を確認する何らかの工夫が必要であろう。学科別には、「理解できない」と回答した学生の割合が、スポーツ経営学科で 10.1%と高くなっているが、公共政策学科では 4.1%、と低く対照的な結果となっている。また、自由記述部分で「レベルが低すぎて退屈」と訴える意見も一部にあった。

設問 11. 【授業への意欲】

○授業に対する意欲としては、「非常に意欲的」（24.2%）、「やや意欲的」（38.5%）で概ね 3 人に 2 人は意欲的に臨んでいることがわかるが、自ら「意欲的でない」と正直に答える学生も 8.0%おり、設問 3 にある授業選択理由との関連などさらに分析できるような設問を次回考える必要がある。

設問 12. 【授業満足度】

○授業の満足度は、「満足も不満もない」が 32.4%で、「まあまあ満足」（33.7%）、「非常に満足」（25.3%）をあわせた「概ね満足」者が約 6 割、「やや不満」（5.4%）、「非常に不満」（2.9%）を合わせた「不満」者が 8.3%の結果となった。「不満」者の割合を学科別にみると、臨床福祉コミュニティ学科で 3.4%、情報メディア学科で 5.6%、公共政策学科で 6.2%と低い反面、スポーツ経営学科で 11.1%と高い割合となっている。

設問 13. 【良かった点、改善してほしい点（抜粋）】

<良かった点>

- ・配付プリントが穴埋め式なので理解が深まる。
- ・小レポートの課題が、やりがいがあつて良かった。
- ・前回の復習や授業の終わりに振り返りがあり、十分理解することができた。
- ・静かな授業で、講義に集中できた。
- ・パワーポイントを使った説明で、難しいと思う問題も分かりやすく解くことができた。
- ・過去の体験談やタイムリーな具体例を取り入れてくれるので分かりやすい。
- ・学生の理解度に合わせて、授業を進めてくれるので、分かりやすく授業についていけた。
- ・小テストが定期的に行なわれ理解を深めることができた。
- ・質問したら丁寧に教えてくれた。
- ・熱く語ってくれるので、真剣になれる。
- ・知らないことを新しく学べる。ワクワク感があり、常に意欲的に取り組める授業だった。

<改善してほしい点>

- ・私語や途中退席を注意して欲しい。
- ・遅刻者にも出席チケットを配っていて不公平。
- ・先生が遅刻してきすぎ。
- ・一方的な授業で理解不能。何をしたいのかわからない。
- ・板書をしようにもバラバラなので書きづらい。もう少しまとめて書いてほしい。
- ・進むペースが早い。
- ・知らないことも知っている前提で説明されるので、よく分からないことが多々ある。

以 上